

新規就農者の定着に向けた支援

■ 西讃管内新規就農者 ■

（西讃農業改良普及センター 松田佳記、○合田典子、宮川三千代、小亀英子、佐溝尚子）

●対象の概要

西讃地域の新規就農者は、過去5年間（平成24年～28年度）で263人となっており、そのうち独立・自営就農者及び親元就農者（祖父母や兄弟の下等での就農者を含む）が92人となっている。24年度から農業法人への就業者も増えており、新規就農者の約半数を占めている。また、法人就農以外にも非農家出身や県外からの新規参入は43人となっており、就農形態の多様化とともに就農相談の内容は多岐にわたるものとなっている。

新規参入者は、技術習得研修先の選択、農地や住居、機械、施設、労働力の確保など、帰農就農者よりも多くの課題を抱えているにも関わらず、就農について安易に考えている傾向がみられる。

また、新規就農者は、全般的に、技術面が未熟なため天候不順に対応できず、品質低下や収量不足に陥ったり、良好な農地の貸借が難しく土壌環境が悪い中での作付けとなるなどの様々な課題を抱えている。このため、本人が経営開始時に作成した営農計画どおりに進んでいない者も見受けられる。

このため、就農希望者・新規就農者に対し、相談から就農後の定着までの継続的かつ重点的な支援を行うことが求められている。

表－1 西讃地域における新規就農状況（人）

年度	形態	就農者数	計
平成24年	新規学卒	1	58
	帰農就農	21	
	新規参入	11	
	法人就農	25	
平成25年	新規学卒	1	52
	帰農就農	19	
	新規参入	8	
	法人就農	24	
平成26年	新規学卒	1	51
	帰農就農	10	
	新規参入	9	
	法人就農	31	
平成27年	新規学卒	1	55
	帰農就農	12	
	新規参入	10	
	法人就農	32	
平成28年	新規学卒	1	47
	帰農就農	25	
	新規参入	5	
	法人就農	16	

●普及活動の経過

1 就農相談活動の実施

関係機関と連携した就農相談窓口を設置し、毎月の観音寺市と三豊市の広報誌やJAのエリア通信で就農相談日の開設を広く周知し、総合的な就農相談に対応した。

就農相談者の情報は本人の承諾を得た上で、関係機関と情報共有を行い、就農にあたっての課題整理や研修の支援、認定新規就農者制度への対応等を行い、就農に結びつくよう努めた。

技術習得が必要な就農希望者には、農業大学校の就農実践研修の受講や、青年就農給付金（準備型）制度を活用した農業士など先進農家や法人等での研修、JA農業インターン制度の活用について情報提供を行った。

また、就農間近の者には、青年等就農計画の策定支援を行うとともに、青年就農給付金（経営開始型）や制度資金、補助事業など施策の積極的な活用を支援した。

2 早期経営安定のための支援

1) 営農状況の確認

青年就農給付金（経営開始型）受給者を対象に

●課題を取り上げた理由

平成28年度の就農相談件数（就農後を含む）は、延べ103件（実数55人）である。近年、就農相談の件数は多いものの、非農家出身で就農ビジョンが漠然としている相談者も多い。

年2回、経営・技術担当や関係機関と連携して栽培技術や経営・労務管理など営農状況の確認を(延べ176回)行い、情報の共有化を図るとともに、重点的な支援が必要な新規就農者に対しては、普及センターが個別巡回を行い、計画目標の達成に向けた助言・指導を行った。

また、青年就農給付金(準備型)を受給している研修生についても、研修状況の確認を行い、経営開始に向けた経営計画の作成等の支援を行った。

2) 新規就農者の経営安定に向けた研修会の開催

新規就農者を対象に、経営の安定に必要な基礎知識が習得できる園芸講座や研修会を10回開催した。

表-1 新規就農者を対象とした研修(28年度)

研修名	内容
初心者簿記講習	・パソコン簿記の基礎知識の習得 ・記帳の重要性について指導
労務管理研修会	・経営の発展は上手な雇用と労務管理(事例と提案)
新規就農者と農業委員との意見交換会(三豊市)	・農地の貸借にかかる課題と改善策について農業委員が助言 ・新規就農者と農業委員との交流
新規就農者と農業士との意見交換会	・新規就農者の経営上の課題等について農業士、青年農業士が助言
西讃の農業を考える研修会	・若い新規就農者を増やすために～新規就農者の視点から～(パネルディスカッション)
園芸講座	・レタス、アスパラガス、ブドウ等の栽培管理、病害虫対策

3) 地域におけるネットワークづくりの支援

新規就農者から「非農家出身で、周りに相談できる農業者もなく孤立している。若い農業者と交流ができる場があれば参加したい。」との声を聞いたことがきっかけとなり、10月に活動が停滞していた西讃農業者クラブを再開させ、新規就農者の仲間づくりと自己研さんによる農業経営者としての自立を促すことを目的に交流会等定期的な活動に向けた取組みを支援した。

また、就農希望者や新規就農者と、先輩農業者や関係機関などとのネットワークづくりを目的に、1月に三豊市の農業委員会との交流会、2月に農業士のほ場巡回や意見交換会等を実施した。

3 地域農業への理解促進と就農意欲の醸成

10月に農業高校生28人を対象に「西讃地域農業学習」、11月に笠田高校の2年生89人を対象に西

讃地区農業士等の経営を学ぶ「現場実習」を実施し、将来の担い手確保に向けた地域農業への理解促進を図った。



I F K理事と西讃農業者クラブとの交流会

●普及活動の成果

1 新規就農者の定着・経営安定を支援

新規就農者を対象とした講座や研修会を通じて新規就農者が必要な基礎知識が学べる機会を提供し、新規就農者間の交流を促進することで、新規就農者の定着及び経営の安定を支援することができた。

2 技術担当等との情報共有

新規就農者について、経営、技術担当や関係機関との情報共有化及び連携強化に努めることにより、計画どおりに進んでいない新規就農者に対して、重点的かつ丁寧な支援を行い、経営の見直しを図ることができた。

3 就農意欲の醸成

農業高校と連携して、農業高校生に対して農業現場を伝える連携授業の仕組みを構築したことで、農業高校生が農業インターンシップに取り組むきっかけづくりとなった。

●今後の普及活動の課題

1 定着及び経営安定まで総合的な支援

就農後の経営状況については、面談や現地巡回による営農状況確認で当初の計画目標どおりに進んでいない場合が多いことが、再認識された。

このことから、引き続き技術担当や関係機関と情報を共有しながら経営安定化に向けて重点的に助言・指導をしていくとともに、新規就農者が必要な基礎知識が習得できる年間セミナーを来年度も継続して実施する。